

明治四十二年

七月十日

【広告】

游泳会広告

一來ル十一日ヨリ鼠島ニ於テ游泳会ヲ開ク
出島玉江橋出船時間如左

七月 毎日午後一時、三時、五時
但日曜日午前九時十一時増發

八月 毎日 午前九時、十一時
午後一時、三時、五時

九月 七月ト同ジ

一 準會員ハ去年マデ大人二十錢小人十錢ナ
リシヲ今年ヨリ大人小人共ニ拾錢トス
一 各小学校ニシテ其全生徒ノ過半数以上団
体トシテ申込ミアルトキハ一名八拾錢ヲ五
拾錢ニ割引ス

七月十日

瓊浦游泳協会

拙者義七月十一日ヨリ八月十日迄毎日午前
六時ヨリ正午迄午後六時半ヨリ同十二時迄
専庁訟記録調査判決書起草等ノ公務ニ従事
ス故ニ総面会ヲ謝絶ス御用向ノ御方ハ午後
一時方六時迄ノ間鼠島へ御光来被下度候也

長崎控訴院判事

從五位勲五等 池田 正誠

七月十五日

【広告】

▲鼠島紀念えはがき 六錢 枚
游泳会

該品ハ金版浮出シ空氣彩色本日ヨリ売出シ

長崎市船大工町七番地 中原 商店

七月二十五日

●鼠島の昨今

全国有数の設備を施しある港外鼠島に於ける瓊浦游泳協会の昨今は一層の盛況を呈し會員の新加入者も続々あり。尚お準會員の數も逐日加わり來れるを以て同會理事者は一人の注意を払い教練に監視に寸毫の油断もなく孜々事業の發展に努めつゝありとは悦ぶ事なり。而して一昨日は荒川本県知事を始め県高等官打揃うて同會の実況視察として鼠島に赴きしにぞ、同會理事者は甲乙丙丁各組の游泳並に各種の技芸を實驗に供せしが、男子部全体の熟達は云うも更なり。女子部の立泳ぎ、御前泳ぎの如きは感賞措かざりし程にて、中にも本年六七歳の少女なる今村鈴木両嬢の百間競泳の如きに至りては、觀者一同激賞之を久しうしたりと云う。因に同會加入の手續等は、大村町商業會議所内游泳會事務所へ照會せば詳細分明すべし。夜々 熱心に励み務めるさま。

八月十一日

●游泳場觀 氷夷生

*彼処は長崎の第二湾内の活潮中心に孤懸せる鼠島。鼠も居る。島の形が鼠にも肖てる。山層の石の色までが鼠色に白灰質の理を帯び其の表土は赤壤。天然自生の古松と群竹と*將た万類草樹の色。山を蔽うの*翠碧一一其名を知らず。月斜めに潮來る八日の午後偶ま彼の游泳場に至り先ず水練踏水學問ちよう実習の初級者即ち丁組の操縦を視たりき。初級者程恐く教

え難きものは有るまい。此の稽古は鶏を鴨たらしむる未だそれよりも困難である。教師たる人の心得は『石を浮る』の意思を以て初級の群弟子に臨むの覚悟らしい。古昔曾点は冠者五六人童子六七人浴沂云々と言いて孔子先生より歎美を忝のうせり。是れは後進青年を親愛するの誠意なればなり。而かも曾点は未だ一度の実行をも期せずして已に此の歎美あり。我鼠島の実況は沂水の温泉地とは違い文武兼ね得る海國人の本領を定むる学問所なり。余は百千父兄の公目を以て池田師範の*薰陶の威嚴と*懇篤とに就て実は喜びの涙を催したると同時に余は斯る良教師に托することを余が親戚知己に勧誘怠らざる者なり。

彼処 そこ。

將た あるいはまた。もしくは。

翠碧 翠みどり。碧あお。

曾点 孔子の弟子。曾子の父。親子で孔子の弟子であった。ある時孔子が弟子たちに志を尋ねたところ、弟子たちがどのような功績をあげたいかを述べたのに対し曾点は「晩春の季節に少年たちとともに沂水で水浴びして、雨乞いをするための祭壇で涼んで、歌を歌いながら帰りたい」と答えた。孔子は感嘆し「私は曾点の意見に賛同しよう」と言った。沂水は山東省の川の名。浴沂之樂(よくきのたのしみ)は「名譽や利益の追求に心を向けず世間から離れてのんびりと暮らす楽しみ」を表す故事成語。

歎美 感心してほめること。

忝のうする 恐れ多くもしていただく。

薰陶 人徳・品位などで人を感化し、よい方に導くこと。

懇篤 心がこもって手厚いこと。

八月十五日

●本日の競泳大会順序

本日午後一時より瓊浦游泳協会が鼠島に於て挙行する競泳大会の番組は左の如し。

▲丁組 一班一回浸泳。二班十間競泳。三班二十間同

(以上何れも六七歳より十歳内外の児童)

▲丙組 一班廿五間競泳。二班五十間同上。三班七十間同上。

▲乙組 一班二百ヤード競泳。二班四百ヤード同上。三班同上。

▲甲組 一班六百ヤード競泳。二班鼠島木鉢間(千二百ヤード)競泳。

三班男神が鼠島間(千六百ヤード)競泳

▲手足搦み(甲組) 盲啞競泳(同) 手繰同上(乙組) 抜手同上(甲組) 障害物同上(船の下を潜り提灯を灯し又傘を携えて泳ぐ) 服装競泳(着服下駄穿のまゝ)

▲別科 甲組二百ヤード競泳乙組百ヤード同上

▲女子部競泳 丙組十間。乙組五十間。甲組八十間。優等生六百ヤード右のうち男子部甲組の障害物競泳は見ものなるべく又別科とは年長者の地位ある人々の一団なれば之れまた喝采なるべきが尚お余興として立泳ぎ、浮身、御前泳ぎ、綺麗抜き、水書、発銃、水中酒醺、瓜割、女子水中理髪、女子日傘行列等ある由。

八月十七日

●鼠島の競泳会

一昨日は折悪しく雷雨の為昨日に延期せる鼠島の大競泳会は午後一時より予定の番組通り数十番の游泳を催したり。当日は一番船四隻は満員になりたれば二番船は特に五隻を*艀したるに之れまた立錐の余地なき程の群集にて其人出は五千名に近かりき。以て其盛況を知るべく游泳の結果は次次に報ずべし。

艀 出航の用意をすること。

八月十九日

●鼠島の游泳大会 一

▲序説 瓊浦游泳協会本年の正会員は千九百何名。やがて二千名に近しと云えば同会創立以来其会員数に於いては第一の成功なり。但し打見るところ*中学程度の学校生徒に少なく、また全国に*冠絶すとの称は決して偽りならざる女子部に就いて観るに高等女学校程度の生徒に||例年に比して少なく見ゆるは不思議の現象なり。前者は少年及び青年子弟の意気に関する

る問題にして後者は其家庭よりの干渉Ⅱ当年挙つて女子の身心錬磨を家庭より勧めたるとは反対の干渉起れる結果にもや。之を聞くに某々府県に於いては水泳を中学校の必須科となしつゝあるものありとか。其府県の事情と又水泳教練の機関*彼此相異なるにも因るべければ一概には云い難きも長期の暑中休暇を空しく遊び暮らさしむるよりは幸いに此の機関の備わるれば学校の必須科たらしむると否とは後の問題に譲りて、差向き教導の任に当る人及び其父兄は子弟をして游泳協会員たらしむるは甚だ有用の業なりと信ず。*蓋し百聞は一見にしかず。一度び鼠島に至りて教練の模様を窺する者は、当事者の監督教導洵に尽せるものあるを感ずべし。(一二注意したきを無きに非ず。ソは後に記すべし。)固より多人数集合して組織したる協会なるを以て*厳乎たる制裁無く為に事務の不統一もあべく、当事者間の相互に異論もあるべく、従つて事業の上に面白からぬ事ありて其結果は故意に協会に対し*悪声を放つものあるべきか。なれど夫等は協会そのものゝ有益なる方面より窺れば*些かの事に属す。「若し父兄にして漫に放つ評判に謬られ其子弟を彼処に送らざるようの事ありとせば、そは直ちに其子弟の不幸たるべし(つづく、桃生)

中学程度 当時は尋常小学校(現在の小学校にあたる)までが義務教育であり、卒業後は高等小学校(二年間)に進学するか働くかが一般的であつた。尋常小学校卒業後に進学する中等学校には「中学校」「高等女学校」「実業学校」があつた。中等学校への進学率は二割にも満たなかつた。当時長崎にあつた中等学校は、長崎中学校、長崎高等女学校(ともに長崎東高・長崎西高の前身)、活水女学校、玉木女学校、鶴鳴女学校、市立長崎商業学校(長崎商業高の前身)、海星商業学校があつた。ここでの「中学程度」とは中等学校の生徒に限らず高等小学校の生徒や働いている者も含め現在の中学生高校生(年齢に相当する者を指している)と思われれる。

冠絶 比較するものがないほど優れていること。

高等女学校 女子を対象とした中学校に相当する学校。

彼此 あれとこれと。

蓋し 確かに。(確信を持った推量)

厳乎 おごそかなさま。

悪声 悪い評判。悪口。

些かの事 ささいなこと。

八月二十一日

●鼠島の游泳大会 二

▲序説(つづき) 中学程度の男子にして自ら進んで協会員たるを為さざる者の間には誠に*尾籠なる懸念に駆られて然るものあるらしく思われる。

ソは下級生が鼠島に於て上級にあることに對し不快の念を抱くこと之れ也。斯の如きは一般には免かるべからざる処なれど学生としては*畢竟未憐卑怯の振舞なるべし。我術未だ至らず、為に他の*下風に立つて厭わす*胡為ぞ進んで彼を*睽着たらしむるの発奮を為さざる。若し右様の事を厭い彼を呪詛し己の短を*さんとならば当代青年の意気衰えることを実に言語道断と申すべし。*這般の風潮は身中学教育の職に在る人*須らく查察すべし。次に高等女学校生徒の頓に減じたるらしきは共に一考を要すべきものたり。固より妙齡の女子は身体の黒色に變ずるを厭うものなれば其辺の懸念もあらんかなれど、之を聞くに協会創立後一二年の間は加入者の數夥だしきものありし由。然れば強ち顔面の銅色に變し皮膚の*檳榔樹色然たるに至るを*啣ちての為にはあらざるべし。或は之を引率する教育家が万一の過ちⅡ精神上の危険Ⅱ妙齡の女子には有り勝の誘惑に陥るが如きことあらんを慮ばかりての戒嚴より来りしにはあらざるか。果して然りとせばそは*杞人の憂に終るべし。實際を見聞するに這般關係の場合当事者が周到なる用意は特に之に向つて注がれつゝあるを窺る。舟中、陸上共に警むるところ甚だ多し。誘惑を速ぐべく甚だ不健全なる女子は卒知らず。相当の教育あり而して自ら進んで受感の性を強めざる限は身心共に之が過ちを為し能わざるべく戒めらるるの設備と監督とあり。要は其父兄保護者或は之が教導の任に在る人が現場を見ること二たびし三度びすれば自ら首肯するものあらん。予輩の之をいうは*豈一の協会を漫りに庇護するに因るものならんや実(に)協会当事者の*苦衷を諒とするものあるを以てなり。(つづく)

尾籠 人前で口にすることがはばかれること。

畢竟 結局。要するに。
下風 人より低い地位。
胡為ぞ どうして。

瞠着 「瞠若(ぶどうじやく)」 驚いて目をみはる、の間違いか。
今般 今般。

須く…べし ぜひともしなければならぬ。

檳榔樹 ヤシ科の高木、ビンロウ。

唧つ 口実にする

杞人の憂 無用な心配。杞憂。

豈…ならん 決して…ではない。

苦衷 苦しい胸の内。

八月二十二日

●鼠島の内外選手競泳

一昨日入港したる独逸巡洋艦隊旗艦スチヤンホルスト号及び巡洋艦ライプツツヒ号の游泳選手より瓊浦游泳会に対し競泳の申込みありたれば同協会は好敵手*御座んなれとて直ちに応戦の快諾を与え本日午後一時より鼠島に於て競泳を行うこととなりたれば協会の選手連は勇躍し居る由。旺なりと謂うべし。

ござんなれ 手ぐすねを引いて待ち構えるさま。さあ来い。

●鼠島の游泳大会 三

▲序説 協会は会員を分ちて丁、丙、乙、甲の四組に大別し丁に一二三の三箇班あり。丙乙甲共に三箇班に小別す。詳しく云えば丁の第一班は尚未だ游泳の初歩だも知らざるものにして之を教ゆるに足部の運動よりし僅かに一二間を進み得るに至りて之を第二班に繰上ぐ。斯くの如くにして第二班より第三班に至り一々試験を経て丙に入り乙に進み甲に及ぶ。而して各組は其冠の帽を以て色別となし班長、助手、助教、師範は当番にて監視船に搭乘し警護の任に当りて下級の者の適當ならざる距離に游泳するを防止し以て万一に備え尚お二十分毎に喇叭をもて号令し一斉に揚陸せしめて過度の運動を防止す。此方法は男女共に等うして男女両部の海上自から区域

を設けたり。用意周到と申すべし。たゞ監督者の苦しむところは準会員と称する人々の監視之れなりと云う。それを如何にと聞くに準会員とは日曜或は土曜日若くは競泳会などの催しある時のみ一時の会員となりて*遊山半分鼠島に赴く人を指すものなるが、此等の人の為には別に太き竹竿を以て区域を立て泳ぎて其区域より遠く出でしめざるにあり。固より此等の人々には河童を親類に持ちたる程の技倆を有する人もあるべく、或は一升徳利然たるブクブク専門の人もあるべく雑多の名人あり。サレど之を為すがままに委せば遠く離れて万一の事あるべきを慮り所謂「竹内」に限らしめて武内組と称す。然るに此人々固より*不羈縦横の人多し。乃ち監督者の制止を肯かずして危きを敢てし却々世話を焼かしむとぞ。斯の如く一方には軍隊組織の如く喇叭を以て号令し一方には所謂武内組をして過ち無からしめんとす。当局者の苦心想うべし、蓋し一度び実地を見たる人ならざれば共に鼠島を語るべからず。(つづく)

遊山 気晴らしに遊びに出かけること。
不羈 行動が自由気ままであること。

八月二十三日

●鼠島の内外人競泳

昨日午後一時より既報の通り鼠島に於て独逸軍艦乗組選手と瓊浦游泳協会員の競泳ありたるが之より先き一番船二番船とも此日の盛観を見んとするもの絆めき合うて乗船せしかば忽ち満員となり午後一時大波止発三番船の如きは特に五隻の団平船を出しまた別に*ランチを*艤し*三板船を僦うて赴くものなどあり。*蕞爾たる鼠島は為に人もて充たされたり。協会当事者は事務員を督励して全島を清掃し事務所の傍には*彩旗を掲げ外賓の上陸地点には椅子卓子を按配し藤川薬剤正通訳の労を執るなど準備全く成り。協会の選手甲組の数十名(此上級者たる初段、二段の面々は予備として控えたり)は腕を扼して好敵手の上陸を今や遅しと待つところに折柄の順風に帆を朶ませて軍艦選手十名は一隻の*カッターに搭じて来れるは午

後二時に近き頃なりき。斯て双方の用意全く成り。先ず第一回を百五十間の競泳（高銚島と鼠島の沖合より鼠島まで）と定めたり。独逸選手の之に加入するもの六人。我は甲組の十数名を出し号笛の下に彼我其精を尽して争いしが実に左の結果を見たり。

第一着児玉、二中川、三若林、四金子、五着独逸選手ゲツシー、六外口、

七大橋、八今村、九平山、十松本

右の如く協会の健児第一着の月桂冠を得たるが之に要せる時間は三分二十五秒なりき。幸榮我に在り。為に日軍の意気大に昂る。第二回は三百間（箇所は第一回同様）独逸選手の加わるもの二。我また、十数名。而して其結果如何と云うに

第一着（四分二十七秒）塚原、二山田、三村松、四宅島、五今村、六萩原、七堀見、八手島、九高島、第十着独逸選手ストルツ

以上の如くにして之れまた我れの*大捷となり我甲組に多数の*優退組を出して競泳を止め余興として女子部の水中日傘行列、御前泳ぎ、水書、男子の発銃等を行いしに独逸選手いずれも舌を巻きて其練達に感じ合えりとなん。

ランチ 港湾内での移動に使う動力付きの船。

艦す 船の準備を整える。

三板船 中国や東南アジアで使われる港湾内や河川で使われる平底の小型船。サンパ

ン。長崎では港内の交通にサンパンがよく利用されていた。日本の伝馬船に相当する。

蕞爾 非常に小さいさま。

カッター 大型の船に搭載されている小型のボート。

彩旗 色とりどりの旗。

優退 運動競技などで、続けて一定数勝ったあと、規定により試合から引き下がること。

大捷 「捷」は「勝つ」の意。

●鼠島の游泳大会 四

月の十六日游泳大会の催しあり。蓋し全国希有の盛観を呈せり。丁組の白帽、丙の白く而して摘の赤き夫れ。乙の紅白染分。甲の真紅の帽子。*特鼻禰の浅黄既に色褪せたるとは反対に身体真ツ黒々なるを誇り顔に各組に分れ

て班長及び助手に卒いられ事務所の左側一定の箇所に整理せる其員数総計一千五百名。若し夫れ海上女神の沖より之を遠望する時ンば紅白の帽一糸乱れず*儀容堂々たるものありしと云えり。其壯観以て察すべし。午後一時半、池田副会長の号令一下先ず丁の組第一班の児童をして一斉に入らしむ。此班は六七歳より十一二歳の幼童にして其数実に四百。両手を水底につけ深き肩を浸すところに体を伸ばし陸に向いて一直線に列し両足を交揚して水を撃つ。忽ち見る飛沫天に*朝し横ざまに之を見れば未だ風無きに白浪起るもの二百間。盛観喩うるものなし。児童嬉々として尚お海を蹴る。之れ游泳の第一初歩。僅かに疲れを覚うるに至りて止む。第二班約百名。コハ浮動十間を成し得るものなり。水顎に達するの辺に整理せしめ一斉に陸岸に泳ぎ向わしむ。第三班また百名。コハ五十間を進み得るものなり。之を海上の団平船に上らしむ。鳴笛高く響くところ一百の児童洵然と飛込み前後を争そいて陸岸に進む。これまた壮なる光景なりき。以上の三箇班は未だ優勢を定むべきものにあらねば総員商品を与えられて当日を終る。次は丙組なり。（つづく）

特鼻禰 中国における禰様の下着を特鼻禰という。

儀容 礼儀にかなった姿や態度。

朝する 向かう。達する。

八月二十四日

●鼠島の游泳大会 五

丙組は手繰、浮身、拔手等の初歩に入るものなれば其游泳も見るに足るべきものあり。各班游泳の結果は左の如し。

▲第一班（五十間）第一者守田貞次、二中島光雄、三松本松政、四犬塚熊夫、五宮崎重一郎

▲第二班（八十間）一西村綱吉、二北尾初男、三高柳秀造、四金子達夫、五森田仁四郎

▲第三班（百間）一三浦政雄、二岡田勝廣、三三浦信好、四北島好太郎、

五栗本雄造

乙組は丙組に於て十町以上を游泳し得るものより選抜して編入するものなれば技術一段見るべきものあり。従つて其游泳も一層の賞賛を博せること言を俟たず。各班の結果左の如し。

▲第一班(百五十間) 一黄添来、二松尾栄吉、三松本彦松、四森實金夫、五岡部常雄

▲第二、三班(二百間) 一鈴木静太郎、二甲斐寅雄、三平中不二郎、四三井伊之吉、五着は宮崎照吉内野静夫の二人。

第一班及び第二三両班合併游泳の二回とも第一着と五着との間隔は三間以上たることなく、何れも際どき勝敗なりし程に観者の感動も一入なりき。かくて愈よ甲組の游泳に入る。甲組は相撲に喩うれば幕下十両どころにして新進の気鋭旺盛なり。*年齒少なきは十二。長じたるも十七歳を過ぎず。サレば其游泳は虎鬪龍撃の*概を示せり。(つづく)

言を俟たず 言うまでもない、当然。

年齒 年齢
概 おもむき。ようす。

八月二十五日

●東久世伯と游泳会

七卿筑紫下りの一人として遺れる東久世伯爵通禮卿は往年を偲ぶべく太宰府の参詣を済し九州の風物を見んが為に各地を漫遊し一昨日長崎へ来り。迎陽亭に滞在中なるが鼠島游泳会の盛況を見るべく本日午後一時該島へ赴く由にて協会は班長以上の練達者をして各種の技芸を催さしむる趣なれば本日の鼠島は一入の賑いなる可しと云う。

東久世通禮(みちとみ) 文久三年(1863年)の「八月十八日の政変」で長州に逃れた尊王攘夷派の七人の公家(七卿落ち)の一人。

●鼠島の游泳大会 六

*刮目して待たれたる甲組第一班五十名の四百間游泳開始の順番となれり。

先ず通船に一団の健児*蝟集して搭乗し対岸木鉢粉炭製造所前石垣の上に立つ。此方に赤旗翻えり彼方にまた同じき旗の揺ぐと見る間に五十の赤帽直線に並列するところ轟然一発銃声轟ろけば忽ち見る白浪天に朝して赤帽は既に海中にあり。拔手、手繰或は横抜きなど秘術を尽して進み来る。着順左の如し。

一大橋健(九分廿秒) 二田中百一(十分二十秒) 三本田清成(同二十一秒) 四井上五郎(同廿四秒) 五井星政吉(同卅秒)

右の如く二着以下は秒数を争そう程なりしかば決勝線に入る時陸上の歓声は全島を動かせり。第二班は五百間。木鉢三井石炭置場よりなり。競泳者は四十名。其壯観は第一班にも優りて左の結果を見たり。

一中川進、二瀬戸口友吉、三田中澤次、四高宮樸、五大坪健二

次は第三班の競泳なり。此班は甲組中の優等者なれば其距離の如きも比較的長し。即ち男神々社下より鼠島まで一漚半なり。之より先き他県の人飛入競泳の申込みを為したれば、万一後れを取らば協会の恥辱なりとは各自の胸中に湧起せる*初一念。いよゝ勢い加わりて必勝を期し百に近き赤帽隊が海波を蹴りて進出する光景は恰も百鯨の魚群を逐うが如く壯観何にたぐいん方も無く陸岸の観る人遠き此方よりの声援また盛んなり。憚る程に一着より五着に至るもの五間以上の差を認めず就中第一着の名誉を得たる吉雄敬義氏は多くの賞賛を得たり。着順左の如し。

一吉雄敬義、二薄井祐次、三村松栄一郎、四今村豊、五日下部貞彦
かくて手繰競泳に移りぬ。(つづく)

刮目 目をこすつてよく見ること。

蝟集 蝟はハリネズミ。ハリネズミの毛のように多くのものが集まること。
初一念 思い立った時の最初の決心。初心。

八月二十六日

●滞崎中の東久世伯

当市深江の友会の発企にて昨夜上筑後町迎陽亭に於て臨時歌会を催せるが同夜は特に来崎中の東久世伯も来会し*錦心繡腸を弄されたりと。尚お昨日は*西道仙氏同伴にて鼠島に赴き健児の游泳を観覽し*国風一首を同協会に寄たりとなり。

錦心繡腸 美しい思想やことばをもち、詩文の才にすぐれていること。

西道仙 医者、教育家、ジャーナリスト、政治家、漢学者。私塾「瓊林学館」を設立、「長崎自由新聞」創刊、市内の百余りの橋に名前を付ける、水道の敷設「万歳三唱」を創始、など功績は数知れず。

国風 漢詩に対して和歌のこと。

●鼠島の游泳大会 七

乙組の手繰競泳は其距離五十間にして既に結了せる各組の競泳は如何なる技を用ゆるも苦しからざりしも此度のものは手繰以外の技を為すを許さざるものなり。乃ち距離も五十間に切りつめたる所以にして其結果は左の如し。

一着金子太郎、二奥田友助、三若杉俵三郎

次に甲組の抜手競泳あり。コハ協会流の抜手にして進出甚だ速やかかなりしかば観者の嘆賞を博せり。次は足捌競泳にして之また甲組に課せらる。先ず団平船に上り両足を縛して飛込ましむ。此距離五十間。僅かに手のみの運動なれば練達せるものにあらざれば為し能わざるなり。結果は左の如し。

一着吉雄敬康、二金子吉郎、三今村豊

次は手捌競泳にしてソハ前者の足を手に変えたるまでなり。次は手足捌競泳なるが其名の示すが如く手足共に縛したるものなれば腰部と背との作用にて進行するもの故熟達のものに限られたり乃ち甲組中の選手三十名之に加わり此距離また五十間なり。観者いづれも舌を巻きて游泳術の發達に驚けり。結果左の如し。

一金子吉郎、二松本兵吉、三島谷平次郎

次は服装競泳なり。即ち衣装をつけ下駄を穿ちたるまゝ百間を泳がざるべからず。奇観此上もなし。結果左の如し。

一児玉、二若杉、三江頭、四金子、五中津、六堀見
右にて男子部相済む。更めて女子部の競泳を記すべし。(つづく)

八月二十九日

●本日の鼠島

瓊浦游泳協会は本日午後一時より特別会員及び本市知名の士を招待し鼠島に於て各種の游泳及び技芸を観覽せしむる筈なれば盛会ならん。

九月一日

●游泳会の一時的中止

別項の如く昨日午前唐津より大安丸は虎列拉病患者を搭載して入港し来りしかば、水上警察署は成規により女神沖へ五日間の停船を命じたり。右に付鼠島の游泳会は午前十時大波止出發の会員に対しては鼠島を一時閉鎖して福田沖に移し游泳せしめ、午後一時發の分よりは断然中止したるが、同時刻は最も会員の群衆するを毎とし、殊に昨日は八月限り会員の最終日として大波止の群衆は非常に多数なりしに中止決行と聞きて落胆し四方に散去せし有様は頗る盛観なりき。因に会期は本月十日までなれば福田に於て継続するか又は昨日限りにて断然本年の終了と為すべきかは昨日までは決定せざりしと。

九月六日

●游泳会は福田にて

女神沖に悪疫船停留の為鼠島の游泳を中止せしが、昨日より午後一時大波止出船来る十日まで福田にて続行する事となれるが、福田よりの帰船は五時なりと云う。

九月十一日

● 游泳対手競技

曩に独逸軍艦選手と競技して勝利を得たる瓊浦游泳協会の選手は明十二日午後港外福田に於て英国艦隊の選手と競技すべく双方とも頃日来練習に余念なしといえれば目覚しき手振を見することなるべし。

九月十二日

● 本日の競泳

愈よ本日午後二時より港外福田に於て英国選手と游泳会選手との競泳を決行することとなれりと。

九月二十三日

● 游泳協会運動会

瓊浦游泳協会にては明廿四日の秋季皇靈祭を期し道の尾公園に於て陸上大運動会を催す由。